

株式会社アーレスティ

当社を取りまく事業環境と 今後の展開

2017年1月16日

2017年スモールミーティング資料



ご説明内容

- 事業内容
- 事業環境
- 中期経営方針

■ 事業内容

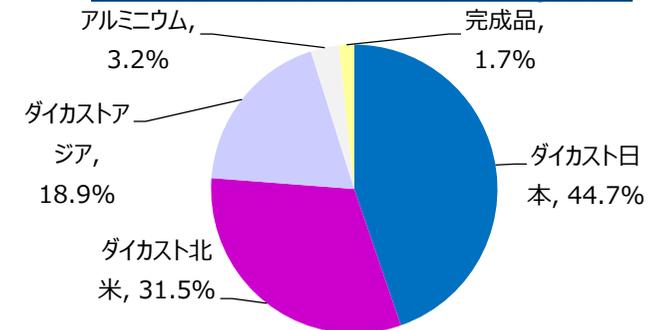
■ 事業環境

■ 中期経営方針

企業概要

商号	株式会社アーレスティ（英語名：Ahresty Corporation）
設立	1943年11月2日（創業1938年6月22日）
売上高	連結：1,444億円（2016年3月期）
従業員数	連結：7,055人（2016年3月末）
取扱品目	アルミダイカスト製品、マグネシウムダイカスト製品 アルミニウム合金地金 フリーアクセスフロアパネル ダイカスト周辺機器
主な取引先	日産自動車(株)、本田技研工業(株)、富士重工業(株)、スズキ(株)、トヨタ自動車(株)、三菱自動車工業(株)、ジャトコ(株)、ゲトラグ、GM、マグナ、他
生産拠点	ダイカスト：日本(5)、アメリカ、メキシコ、中国(2)、インド アルミニウム：日本 金型：日本(3)、中国、タイ、メキシコ その他：テクニカルセンター 他

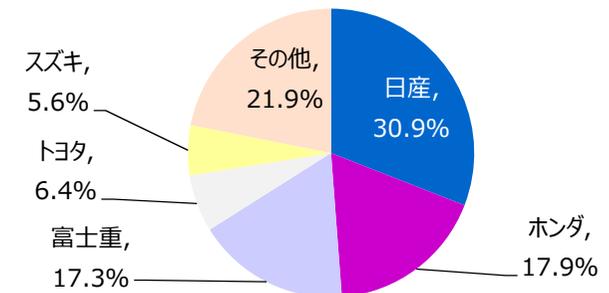
事業別売上高比率（2017年3期2Q累計）



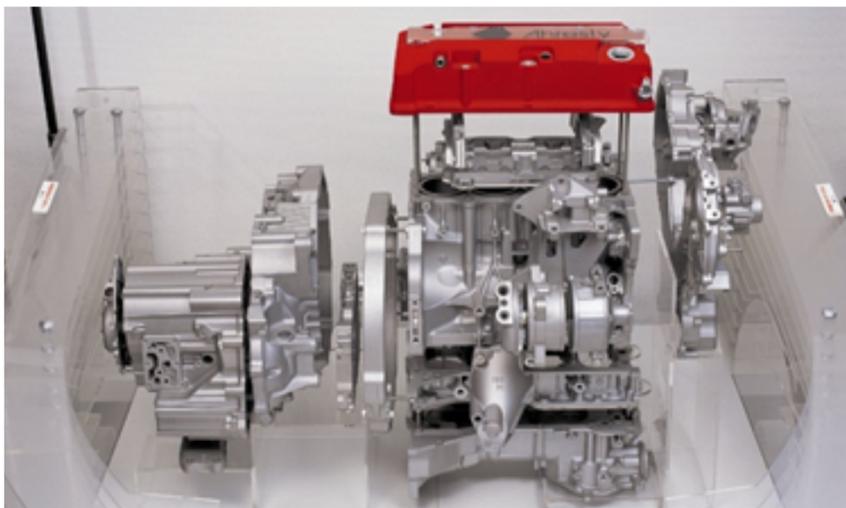
ダイカスト用途別売上高比率（2017年3期2Q累計）



ダイカスト顧客別売上高比率（2017年3期2Q累計）



ダイカスト



エンジン（自動車の心臓部）

自動車の高品質化、軽量化の求めに応じて、シリンダーヘッドカバー、カムブラケット、シリンダーブロック、ラダーフレーム、オイルパン、チェーンケースなどのエンジン本体部品、ブラケット類などの部品がダイカストで作られています。

トランスミッション（動力伝達の要）

エンジンで作られた動力を扱いやすい回転数に変換する機構。形状が複雑であり、高い強度、寸法精度、外観品質が求められます。トランスミッションケース、クラッチケース、ハウジングコンバーター、バルブボディなどがダイカストで作られています。

足回り（走行の安全性や走り心地に影響）

足回り部品の軽量化も高級車を中心に普及。剛性、強度、靱性、耐食性などが求められる。NI法、MFT法などの新しいダイカスト工法で対応しています。

主要なダイカスト製品

- ★アルミダイカスト製品 ⇒ 9割以上が四輪自動車用の部品
 - ・エンジン用、トランスミッション用等
- ★マグネシウムダイカスト製品
- ★金型鋳物製品（グラビティダイカスト）
- ★その他
 - ・ダイカスト用金型、ダイカスト周辺設備、中古ダイカストマシン再生販売

ダイカスト製品の特長

- ★ダイカスト＝ダイ（DIE）カスト（CAST）
- ★金型を用いて、高速、高圧で鋳造した鋳物や製法
- ★生産性の高さと寸法精度に優れ、鋳肌が美しい
 - ⇒形状が複雑で大量生産が必要な自動車部品などに多く用いられる。



当社製品搭載車

◆日産

アルティマ
シーマ
マーチ
フーガ
エルグランド
ムラーノ
セレナ
GT-R
スカイライン
ティアナ
DAYZ
Infiniti
エクストレイル 他

◆SUBARU

レガシイ
レガシイアウトバック
インプレッサ
フォレスター
XV (HV車含む)
BRZ
WRX S/4 STI
LEVORG
エクシーガ 他

◆三菱自動車

ギャランフォルティス
デリカ D:5
RVR
アウトランダー
ランサー
エボリューションX
eKワゴン
eKスペース
TRITON

◆ホンダ

LEGEND
フィット (HV・EV車含)
フリード
CR-Z
ステップワゴン
アコード (HV車含)
N-BOX N-ONE
N-WGN
オデッセイ
ヴェゼル
GRACE
SHUTTLE
S660 他

◆アキュラ

RDX
MDX
TLX 他

◆SUZUKI

MRワゴン
バレット
アルト
他 キザシ
ワゴンR
スイフト
SX4
スペーシア
ハスラー
セレリオ 他

◆レクサス

HS250
RX450h
LS600h
IS
NX300h
RC/RC F

◆TOYOTA

MIRAI
エティオス
ヴィッツ
ラクティス
マークX
センチュリー
ランドクルーザー
タンドラ
エスティマハイブリッド
ベルファイア
RAV4
SAI
ハリアー
クラウン (HV車含む)
カローラUS
86 他

◆ダイハツ

アトレー
ハイゼット 他

◆日野自動車

他 デュトロ (HV車含む)
レンジャー 他

◆クライスラー

グランドチェロキー
チェロキー

◆フォード

フィエスタ
フォーカス

◆GM

シボレーシルバラード
GMC シエラ

◆メルセデス・ベンツ

Mクラス
(HV車含む)
GLA 他

◆アウディ

A4L
Q5
A3

◆VW

Golf 7

国内ダイカスト生産拠点



東海工場

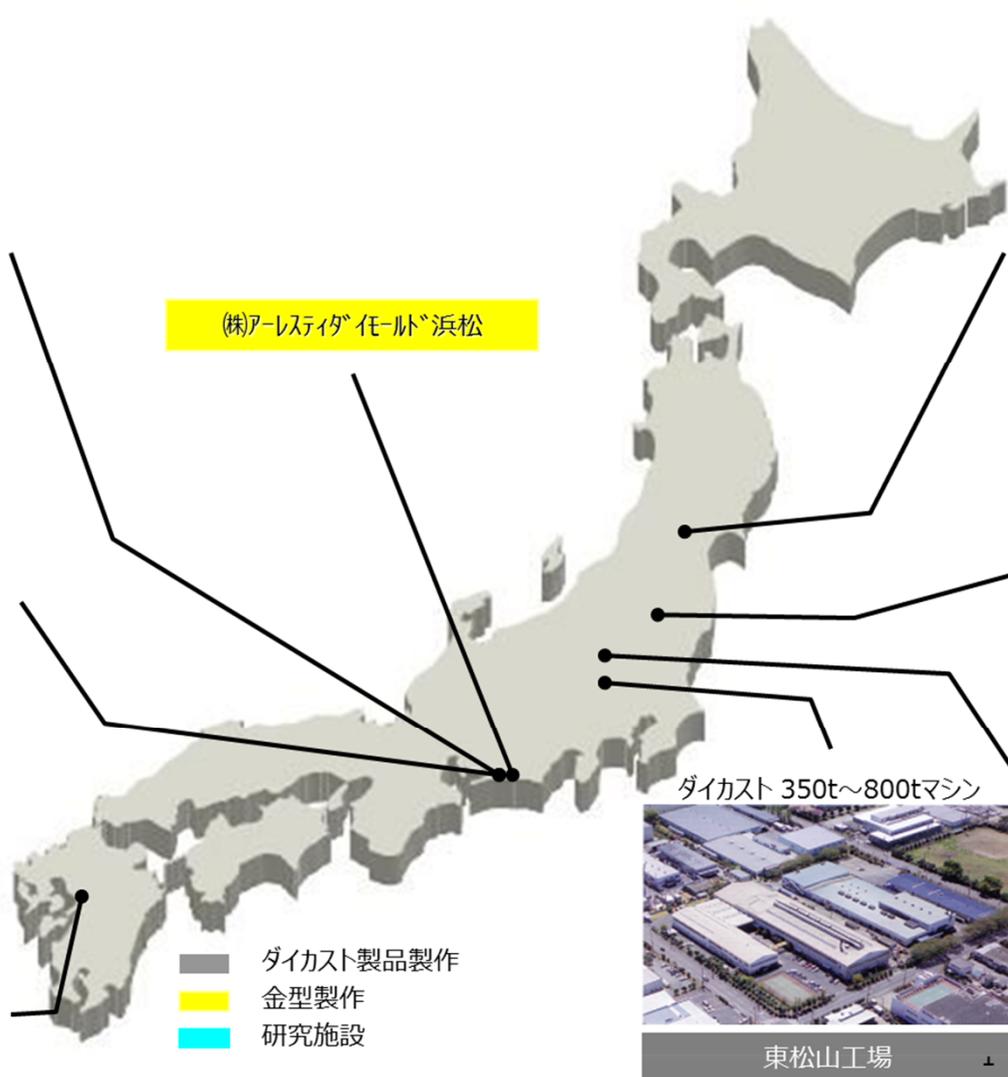


テクニカルセンター



(株)アレスティ熊本

(株)アレスティダ`イモ-ル`熊本

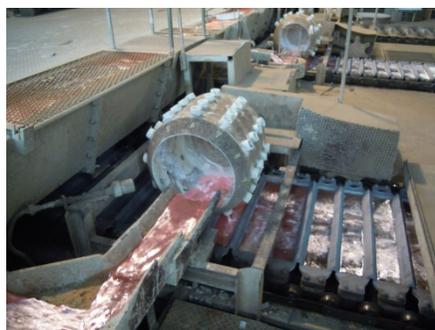
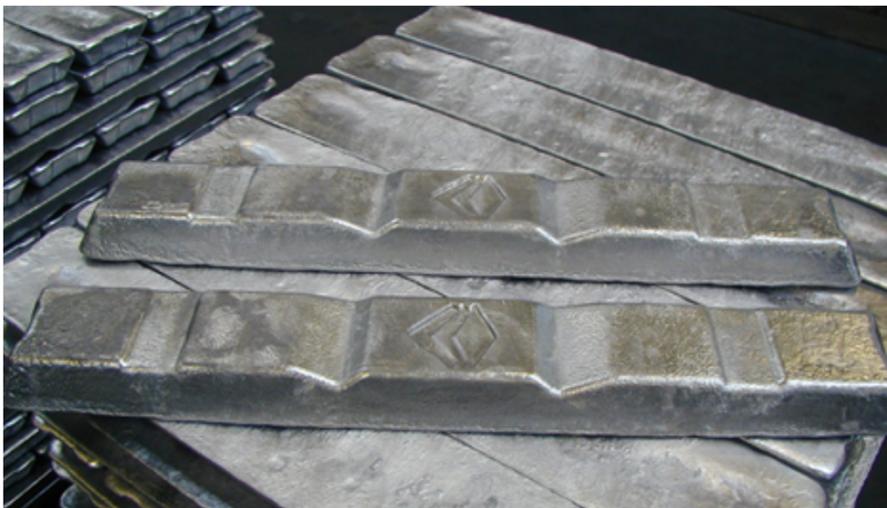


海外ダイカスト生産拠点



アルミニウム事業 完成品事業

アルミニウム合金地金



ダイカスト向け（AD系）合金や鋳物向け（AC系）の他、特殊用途向けのアルミニウム合金地金など約40種類の地金を生産。アルミニウム缶、サッシ、自動車の解体スクラップなどの他に、アルミニウム新塊や添加材などの原材料をもとにアルミニウム合金地金を生産しており、分析機器やノウハウを活用し、厳しい管理のもと、品質の優れた工業用地金を提供しています。

フリーアクセスフロア



※TBSテレビ日曜劇場「下町ロケット」のセットに使用されました。



フリーアクセスフロアとは配線・配管を床下に納める二重床システムです。当社では半導体生産工場などのクリーンルームやデータセンターに注力しています。アルミダイカストメーカーの高い技術力を活かし、最軽量フリーアクセスフロアを商品化。アルミダイカスト単一材のため100%リサイクルであり、軽量化により輸送に伴うCO2削減効果、建築胴体躯体への重量負担軽減による長寿命化に貢献。

ご説明内容

- 事業内容
- 事業環境
- 中期経営方針

ダイカスト事業環境 1

グローバル化と外注化の流れを掴み、海外事業を拡大

- 世界の自動車生産は中国・新興国を中心に増加

2020年で1億台突破の予測

⇒グローバルで約1200万台増加(対2015年)
日本の生産台数と同様の需要増

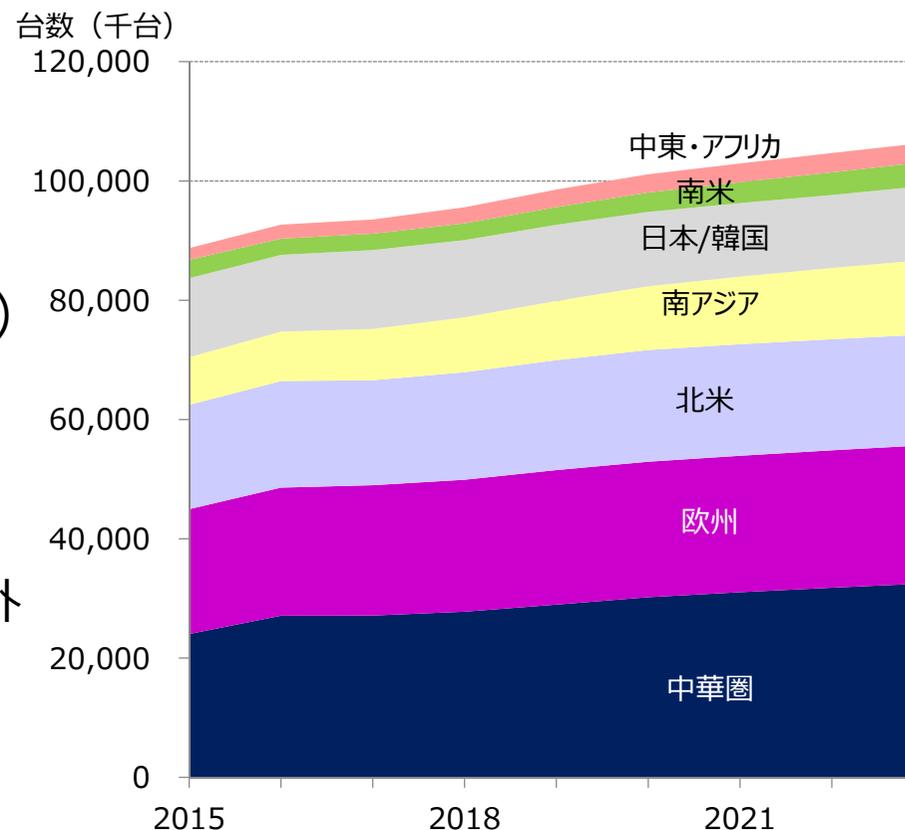
- 外注化への流れ

⇒自動車生産台数が増えるなか、自動車メーカーの設備投資の優先順位からダイカストは外注化される方向

⇒機械加工までを外注化

機械加工付での受注が増加

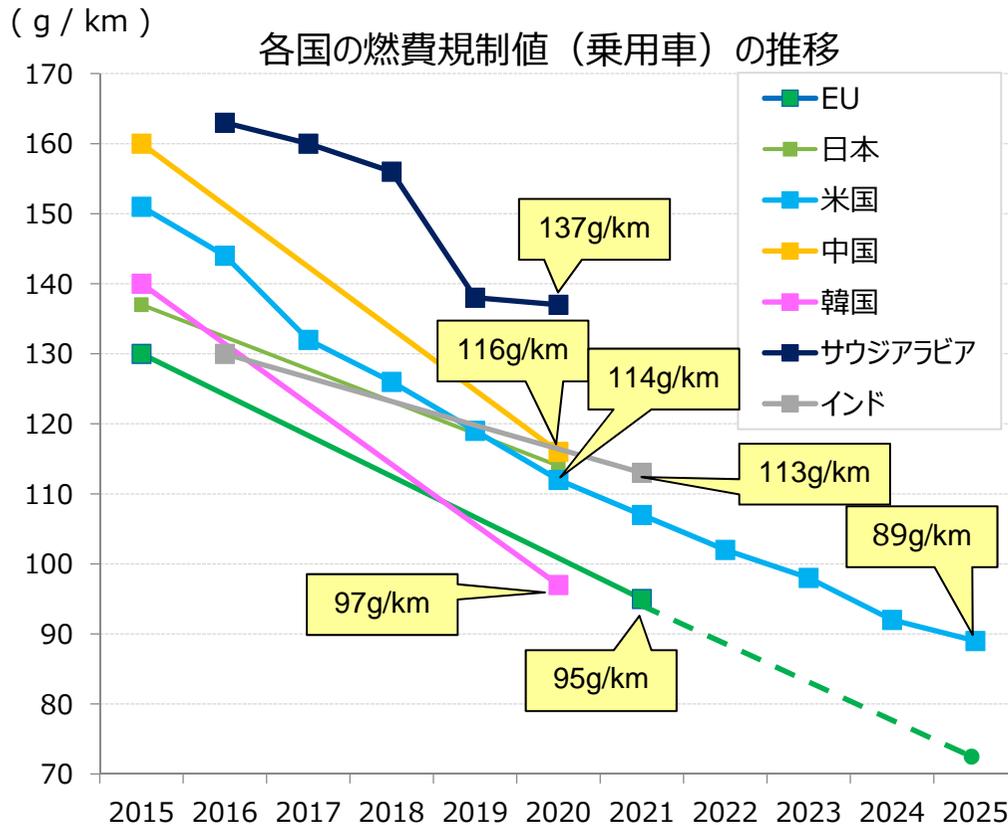
海外では90%以上は機械加工付



世界ライトビークル生産台数予測
©2017 IHS Inc. All rights reserved

ダイカスト事業環境 2

燃費規制による軽量化ニーズの拡大



▶ 軽量化ニーズの拡大

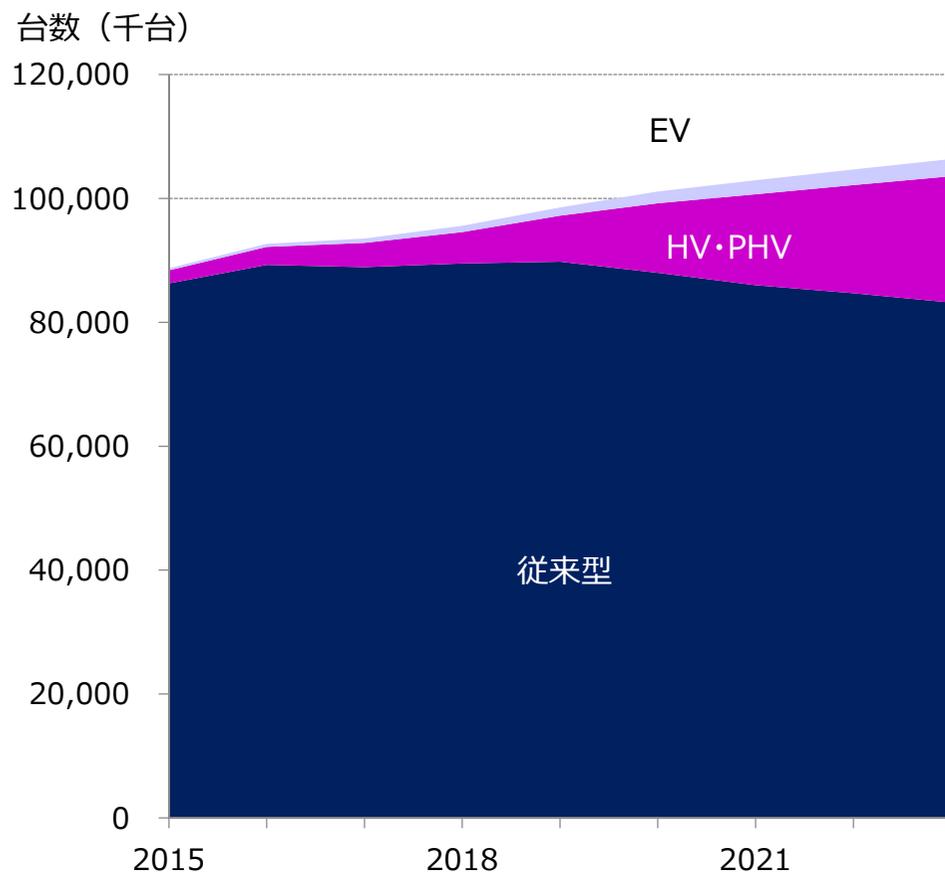
- ✓ 環境保護の観点から自動車の低燃費化 (世界の燃費基準は益々厳しくなる)
- ✓ 安全性や快適性向上の観点から保安部品や多様な車載部品によって自動車の重量は年々増加傾向
- ✓ 自動車を軽量化するためには、小型化、車体構造の変更のほか、軽量化材料への置換が有効
 - 鋳鉄エンジン→アルミエンジン
 - HV化による部品点数の増加

2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025

注1: すべて乗用車の規制値
 注2: 数値は各国で異なる燃費の表示方式を走行1km当たりのCO2排出量に単純換算した各国・地域全体での平均値で、企業の車種構成によって達成すべき目標値は異なる。EUの2025年目標値は検討段階で未確定。
 出所: 各国・地域規制当局、ICCT、マークラインズより(株)アーレスティ作成

ダイカスト事業環境3

EV車が徐々に増加するが影響は小さい



世界ライトビークル生産台数予測
©2017 IHS Inc. All rights reserved

➤ 当面はEV化の影響は小さい

2023年予測
従来型：8,300万台 HV・PHV2,000万台
EV：280万台 Total：10,600万台

- ✓ EV車は増加するが、当面は内燃系エンジンが中心。エンジン・ミッション系部品への影響は小さい。

➤ 将来的なEV市場拡大への準備は必要

- ✓ ボディ部品等のダイカスト化に備え、技術開発と営業活動を強化し受注獲得をめざす体制を整えていく。

ダイカスト事業環境4

グローバルに展開するダイカストメーカーは多くない

会社名	国籍	日本	アメリカ カナダ	メキシコ	南米	中国	タイ	ベトナム	インド	欧州
(株)アーレスティ	日本	○	○	○		○	○ (金型)		○	
リョービ(株)	日本	○	○	○		○	○			○ イギリス
広島アルミ工業(株)	日本	○		○		○	○	○		
NEMAK, S.A B. de C.V.	メキシコ		○	○	○	○			○	○ 全域8
Martinrea Honsel	カナダ			○	○ ブラジル	○				○ ドイツ スペイン
Georg Fischer Co.	スイス		○ (LINAMAR)			○				○ スイス他5
Group Bocar	メキシコ			○						
Magna international Inc.(COSMA)	カナダ		○			○				○ ハンガリー他2

当社の強み

➤ 技術力、グローバル生産拠点展開

大型の高難易度製品（例えば、エンジンブロック、ミッションケース等）を国内外で供給できる

➤ ダイカストの設計から生産までの総合的な技術開発力

開発段階からお客様と品質・生産性等のつくり込みができる

➤ 一気通貫生産体制

原材料生産・金型製作・鋳造・機械加工まで対応できる

➤ 独立系メーカーである

特定のお客様に縛られずに受注活動ができる。

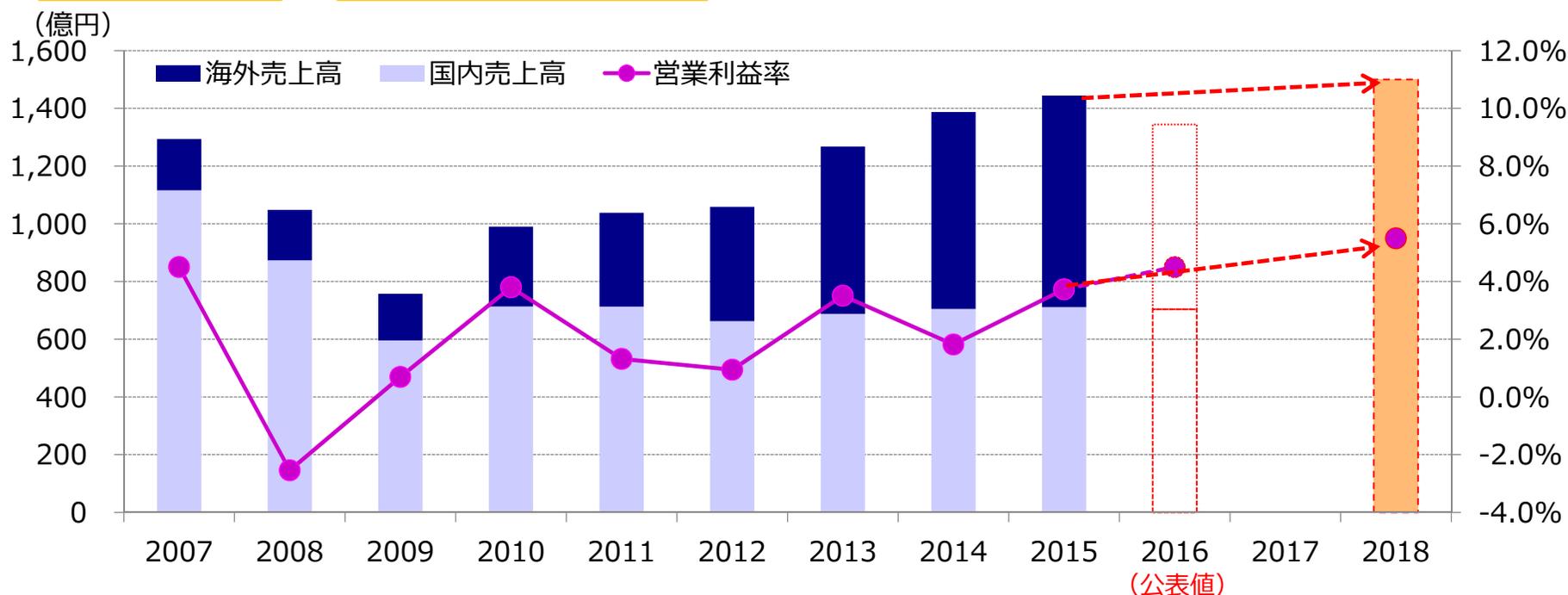
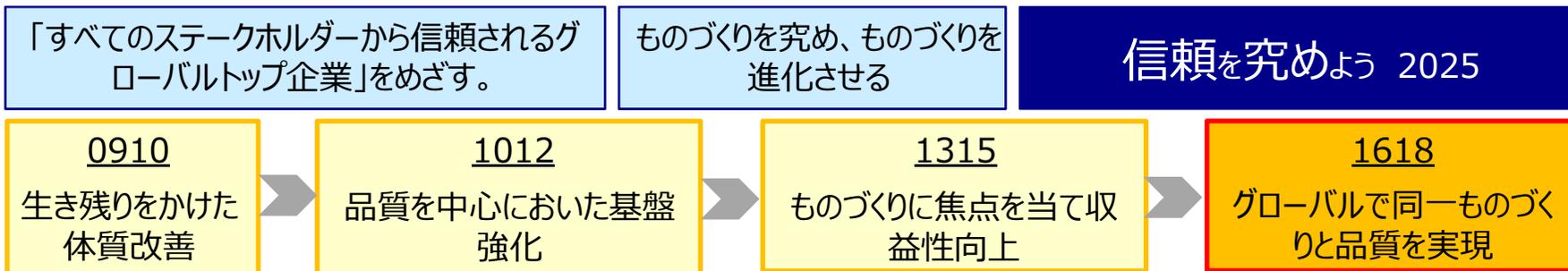
当社の位置付け

事業規模・技術力・開発力は業界トップ企業の一つ

ご説明内容

- 事業内容
- 事業環境
- 中期経営方針

10年ビジョンと中期経営計画の推移



1618中計では1315中計を更にグローバルで展開し「ものづくり」「ひとづくり」「収益力強化」を図る

1618中期経営計画の基本方針

ア－レスティ10年ビジョン

信頼を究めよう 2025

ありたい
姿

- お客様からの信頼No1
- グローバルで車の軽量化に役立つ
- 売上高2000億+α

1618中期経営計画

大型高難易度製品の
顧客評価No1実現

ものづくりを究める

生きいきと活動する
会社を築く

収益力を高める

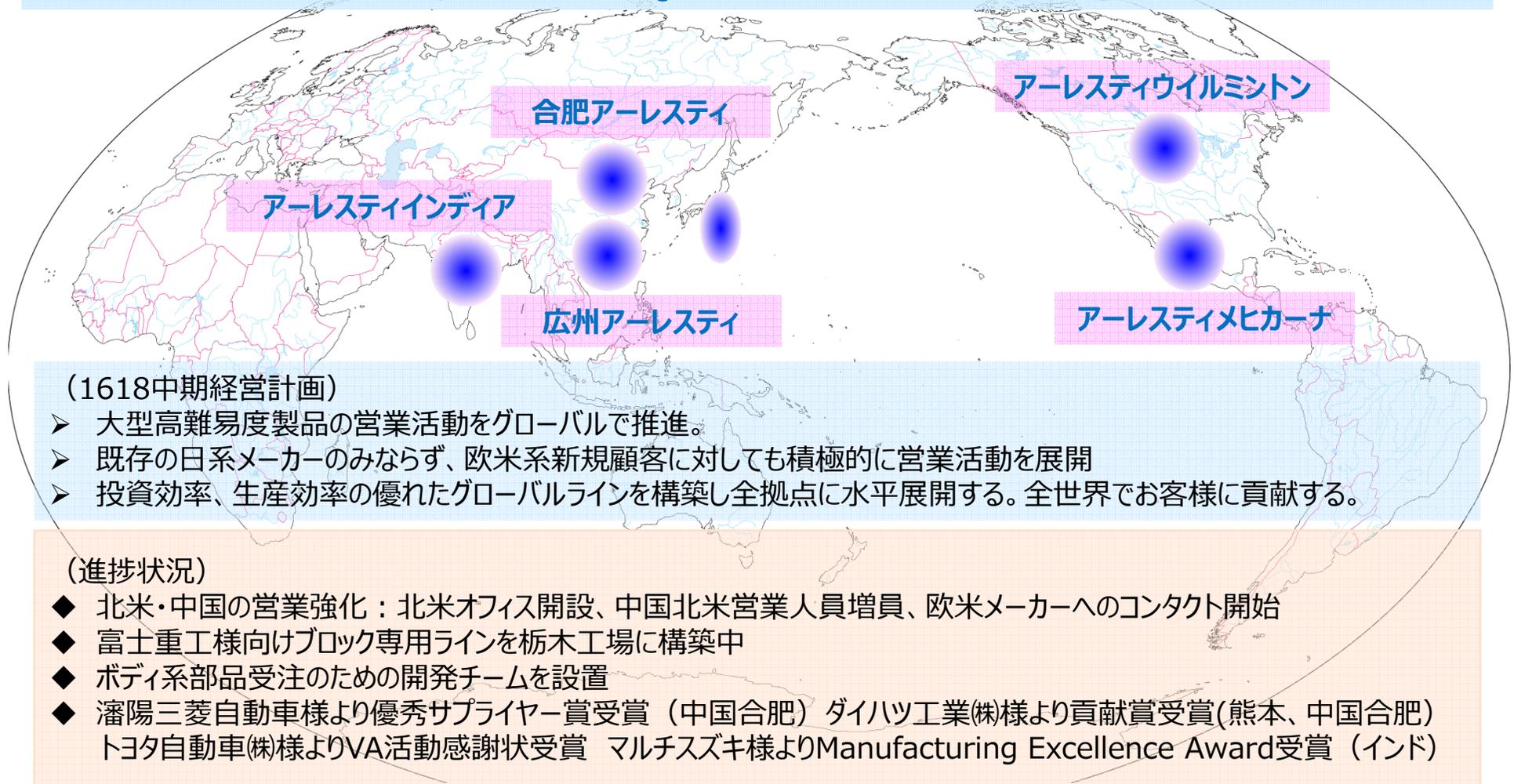
リスク管理を徹底する

取り巻く事業環境

- ・新興国を中心とした自動車需要の増加
- ・先進国の需要回復
- ・軽量化によるアルミダイカスト採用増加
- ・少子高齢化に伴う国内における自動車販売減少

大型高難易度製品の顧客評価No1実現

大型で要求品質の高い部品のQCDを向上させることで顧客評価No.1を目指す



ものづくりを究める

グローバルレベルでの業務改革・標準化

事業（製品、サービス）あるいは機能（Q、C、Dなど）の目的・目標に対し、付加価値を高めていくプロセスと体制をグローバルで同一の水準で構築する

①グローバル基準でものづくりプロセスを確立

製造条件の分析結果に基づく継続的な生産性改善活動と改善結果の他拠点展開でグローバルでしゅみを統一

②信頼を究める品質保証の確立

各部門、各製造工程で高い品質が保証されるしゅみを築く。常にレベルアップを目指す改善活動を継続的に実施

③技術のロードマップの実現

技術ロードマップに基づく技術的な課題の解決と他製品や他生産拠点へ水平展開の実施

④徹底した製造原価低減活動

更なる生産性向上や効率化・合理化による製造原単位の低減等により、製造原価の低減を実現

（進捗状況）

- ◆ ①鋳造・加工の最適製造条件の監視と管理を実施 ②ランクアップ活動による品質保証体制の構築
- ◆ ③技術のロードマップに基づいた課題の解決と、技術の蓄積を進める ④ロス低減と原単位管理による原価低減を推進
- ◆ 方針評価会開催（国内1回/3ヶ月、海外1回/4ヶ月）Global Kaizen Meetingの開催

生きいきと活動する会社を築く

RST Wayを実践できる企業風土づくり

ものづくりを究める人材育成

RSTWay

「誠実」「率先」「スピード」「成長」「挑戦」

RSTWayを実践できる、風通しの良い企業風土を築く

- ✓ 社員のモチベーション向上
- ✓ 社員間の良好な関係構築
- ✓ スピーディかつ正確な情報伝達

(進捗状況)

- ◆ RST WAY表彰 Ahresty Award創設表彰
- ◆ コミュニケーション活性化委員会設置、委員会活動
- ◆ 社内壁新聞発行、社内報、グローバル報発行

RSTプロダクションWay

教育体系を整備運用して人材育成を強化
(グローバルRST学園の充実)

社員のモチベーション向上
社員の知識、技能のレベルアップ

(進捗状況)

- ◆ 教育体系・カリキュラムの整備、テキストの整備
- ◆ トレーナー養成教育を開催
- ◆ メキシコ：メキシコ日産主催QC大会で1位受賞
- ◆ インド：インドQC協会から金賞受賞
- ◆ 品証・アーレスティプリテック・アーレスティ山形
日科技連主催クオリティフォーラム等で発表

収益力を高める

1618中期経営計画 経営目標値

売上高 1,500億円	売上高営業利益率 5.5%
総資産当期純利益率(ROA) 3.0%	自己資本当期純利益率(ROE) 7.0%

中長期的な事業発展・企業成長のための財務体質と経営基盤の強化

適正な利益還元

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MPO_IR@ahresty.com

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。